

令和4（2022）年度

福島大学大学院

共生システム理工学研究科（博士後期課程）

学生募集要項

新型コロナウイルス感染拡大の状況により、
試験日程等が変更になる場合があります。
最新情報は本学ウェブサイトでご確認ください。
(入試情報 <http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>)

令和4年度入試から、共生システム理工学研究科（博士後期課程）学生募集要項は冊子での配布は行いません。
学生募集要項は、取り寄せていただく必要はなく、本学の募集要項ウェブサイト（<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/yoko.html>）で確認のうえ、出願に必要な書類を作成・印刷・郵送してください。



〒960-1296
福島市金谷川1番地
☎024-548-8064（入試課）
<http://www.fukushima-u.ac.jp/>

福島大学
スマートフォン対応サイト



目 次

I. 福島大学大学院共生システム理工学研究科（博士後期課程）学生募集要項

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）	1
1. 募集人員	3
2. 出願資格	3
3. 出願手続	4
4. 選抜方法	7
5. 日程および試験会場	7
6. 障害等のある入学志願者の事前相談	8
7. 合格者発表	8
8. 入学手続および入学手続に係る留意事項	8
9. 入学科・授業料の免除等について	8
10. 注意事項	9
11. 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において 被災された方に対する検定料の免除について	9
12. 2次募集について	10
13. 入試における新型コロナウイルス感染症対応について	11

II-1. 福島大学大学院共生システム理工学研究科

共生システム理工学専攻（博士後期課程）の特色

1. 教育課程の編成と基本理念	13
2. 修了要件，履修方法および学位の授与	13
3. 開設授業科目および単位数	14
4. 「共生システム科学特別研究」担当教員一覧	15
5. 教育方法の特例措置について	20
6. 長期履修学生制度について	20

II-2. 福島大学大学院共生システム理工学研究科

環境放射能学専攻（博士後期課程）の特色

1. 教育課程の編成と基本理念	21
2. 修了要件，履修方法および学位の授与	21
3. 開設授業科目および単位数	22
4. 「環境放射能特別研究」担当教員一覧	23
5. 長期履修学生制度について	25

この要項には，次の提出書類が添付されています。

1. 入学志願票，写真票，受験票
2. 研究業績報告書
3. 検定料収納証明書貼付票，検定料免除申請書
4. 宛名票

I. 福島大学大学院共生システム理工学研究科（博士後期課程）学生募集要項

共生システム理工学専攻（博士後期課程）アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

○ 教育目標と求める学生像

共生システム理工学専攻博士後期課程では、持続循環型社会の実現や、少子・高齢化問題への対策など、21世紀の課題解決に貢献できる人材の養成を目的としています。このような複雑で複合的な要因を有する課題の解決のためには、これまでの理工系大学院の中心であった自然科学に関する高度な専門知識及び研究能力だけでなく、人間科学・社会科学的な素養も身に付けた国際的に活躍できる高度専門職業人・研究者が求められています。

そこで、人－産業－環境の共生を理念とし、共生数理システム領域と共生環境システム領域の2領域で研究プロジェクトを実施し、実践的な活動の機会を通して、自立して研究・開発を行う能力のある人材を養成します。これにより、人を中心とし、産業や環境との共生を考慮したシステム科学の創造・発展・継承を行い、国際的な貢献に資することを目指しています。

2領域の特色と目標は以下の通りです。

[共生数理システム領域]

本領域では、機械・電子・制御・数値情報・コンピュータ科学に加え、経営情報システム、技術経営（MOT）、生産管理とロジスティクスシステム等に関する教育・研究を行い、通信ネットワーク・ソフトウェアなどの情報通信システム、産業用ロボットなどの機械システム、医療・福祉システム、生産システム、輸送システム等さまざまな産業分野において地域社会のニーズに応え人と共生可能な工学系システムの創出を支える、卓越した技術開発力と高度な研究能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

[共生環境システム領域]

本領域では、機能性材料・資源循環・エネルギー技術等に関する教育・研究を行い、地域特性をも活かした持続循環型産業システムの創生に関する幅広い知識を備え、高度な工学的研究・開発能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。また、環境システム分野の幅広い知識に加え、水や物質循環に沿った環境変化の実態についてのフィールド調査、衛星観測からモデリングまでの様々な手法を活用して解析し予測することができる能力や、大気圏・水圏・地圏・生物圏・人間圏における環境保全や汚染浄化・環境再生等に関する専門技術を活かせる能力、さらに人間活動による影響について環境情報を活用して評価し持続可能な人間環境システムの管理・計画ができる能力、心理学・生理学とそれらに関連する幅広い知識を通じて人間の心理・生理的仕組みを解明する能力など、高度な専門的能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

○ 入試の際に求める知識・技能・意欲

持続循環型社会の実現、少子・高齢化問題への対策などの21世紀の課題解決に貢献できる人材となるための、カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と博士論文研究の遂行ができるための要件として、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・当該分野の学習の前提となる、理工系大学院博士前期（修士）課程までに獲得すべき基礎的な知識と研究経験
- ・理解力、柔軟な思考力、応用力、および表現力
- ・現代社会の課題を理工学的に解決するため、多様な人々と協働して積極的に取り組む意欲と、学修・研究に対する主体性

環境放射能学専攻（博士後期課程）アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

○ 教育目標と求める学生像

環境中にある放射性核種は、大気や水の循環、生物の活動などにより、その形態を変えつつ環境中をダイナミックに移動し、それを支配する因子は、放射性核種自身の物理的・化学的性質に加え、気象条件や土壌の性質、動植物の生理生態学的な特性など多岐にわたります。したがってその解明には、生態学、生物学、地球科学、現象数理学、化学、物理学、機械工学、電気工学などのさまざまな学問分野の知識を横断的に理解するとともに、俯瞰的に考察することが必要です。

これまで人類は、大気圏核実験や事故等によって人工放射性核種の環境放出を経験していますが、その影響については未解明な部分が多くあります。また、近年の高度な工業製品の開発に不可欠であるレアメタル等の天然資源の開発などに係る天然放射性核種の管理も、重要な課題となってきました。

本専攻は、こうした課題に対応するため、人工および天然放射性核種の環境中の動態を解明し、計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに、高度な専門知識に基づいて中長期的視点で総合的に取り組むとともに、環境防護、予測評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの分野の課題解決ならびに学術的発展に積極的に貢献しようとする強い意欲を持つ人を対象として、学習の前提となる基礎力、柔軟な思考力、分析・観察力、学習意欲、学習・研究に対する主体性などを総合的に評価し、本専攻に相応しい人材を選抜します。

本専攻には1つの領域があります。

[環境放射能領域]

環境放射能学に関する高度な専門知識を基礎として、それらを深化・融合・発展させて環境中の放射能の動態メカニズムを明らかにし、人類の安心・安全な社会・環境を構築しようとする姿勢を育成します。

○ 入試の際に求める知識・技能・意欲

環境放射能学という学際的な学問体系の枠組みの中で、新たなる未知の課題に対応できる実践的な力を有する専門職業人となるための、カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と博士論文研究の遂行ができるための要件として、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・当該分野の学習の前提となる、理工系大学院博士前期（修士）課程までに獲得すべき基礎知識と研究経験
- ・理解力、柔軟な思考力、応用力、および表現力
- ・環境放射能に関する課題解決に多様な人々と協働して取り組む意欲と、学習・研究に対する主体性

1. 募集人員

専攻名	領域	募集人員
共生システム理工学専攻	共生数理システム	4名
	共生環境システム	
環境放射能学専攻	環境放射能	2名

※ 募集人員は、一般入試，社会人特別入試の合計数です。

※ 各専攻での領域ごとの定員は設定していません。

2. 出願資格

(1) 一般入試

次のいずれかに該当する者とします。

- ① 修士の学位または専門職学位を有する者および令和4（2022）年3月31日までに取得見込みの者
- ② 外国において修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者および令和4（2022）年3月31日までに授与される見込みの者
- ③ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者および令和4（2022）年3月31日までに授与される見込みの者
- ④ 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位または専門職学位に相当する学位を授与された者および令和4（2022）年3月31日までに授与される見込みの者
- ⑤ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法（昭和51年法律第72号）第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者および令和4（2022）年3月31日までに授与される見込みの者
- ⑥ 外国の学校，④の指定を受けた教育施設または国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第16条の2に規定する試験および審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- ⑦ 大学を卒業し，大学，研究所等において，2年以上研究に従事した者で，当該研究の成果等により，修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者
- ⑧ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後，または外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後，大学，研究所等において，2年以上研究に従事した者で，当該研究の成果等により，修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると本研究科において認めた者
- ⑨ 本研究科において，個別の入学資格審査により，修士の学位または専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，令和4（2022）年3月31日までに24歳に達するもの（平成10年4月1日に生まれた者を含む。）

（注）出願資格⑥，⑦，⑧または⑨で出願しようとする者については，個別の入学資格審査

を行いますので、本学所定の申請書に必要事項を記入し、必要書類を添えて、出願の1か月前までに本学入試課に提出してください。

なお、申請に必要な書類については、本学入試課に問い合わせるか、本学ウェブサイトの「入試情報」(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>)を参照してください。

(2) 社会人特別入試

「(1) 一般入試」出願資格のいずれかに該当し、かつ、次のいずれかの要件に該当する者

- ④ 出願時に、企業、公共機関等に在職している者
- ⑤ 出願時に、企業、公共機関等に在職していないが、入学予定時において、修士の学位、または専門職学位を取得してから2年以上経過した者

3. 出 願 手 続

- ◎ 出願に当たっては、出願前に志望領域の希望指導教員と連絡を取り、研究分野の適合性について必ず相談してください。

連絡先等が不明な場合には、本学入試課（E-mail：nyushi@adb.fukushima-u.ac.jp）まで連絡してください。

(1) 出 願 期 間

令和3（2021）年7月16日（金）から7月21日（水） 午後5時まで

(2) 願書提出先

福島大学入試課 〒960-1296 福島市金谷川1番地 ☎ 024-548-8064

(3) 出 願 方 法

入学志願者は次項(4)の出願書類を取りそろえ、封書の表に「**大学院共生システム理工学研究科（博士後期課程）入学願書在中**」と朱書きし、必ず**一般書留速達**にして郵送してください。出願期間を過ぎた場合は受理できませんので、郵送期間を十分に考慮して早めに送付してください。ただし、令和3（2021）年7月20日（火）以前の日本国内発信局消印のある一般書留速達郵便に限り、期限後に到着した場合でも受理します。

持参の場合、入試課の窓口受付時間は平日の午前9時から午後5時までです。

(4) 出願書類および検定料

書 類 等	提出該当者	摘 要
①入学志願票・受験票等（＊）	全員	写真（縦4cm ×横3cm）は出願前3か月以内に撮影した上半身正面脱帽のものを貼付してください。
②大学院成績証明書	全員	出身大学長または研究科長が作成したものとします。（コピー不可）
③修了（見込）証明書	全員	出身大学長または研究科長が作成したものとします。（コピー不可）
④修士学位論文等	(A) 修士課程修了見込者・修士学位取得見込者	・ 研究概要 現在行っている研究の内容を、結論に関する予測を含めて、A4用紙5ページ以内で記入してください。
	(B) 修士課程修了者、 修士学位取得者	・ 修士学位論文の写し ・ 修士学位論文の要旨 修士学位論文の要旨についてはA4用紙5ページ以内で記入してください。なお、関連した論文の別刷りまたは学術講演、特許等がある場合は、そのコピーを添付してください。
	(C) (A), (B) 以外	・ 研究概要 これまでの研究の内容を、A4用紙5ページ以内で記入してください。
⑤研究計画書	全員	希望する研究テーマについて、その目的および構想などを、A4用紙5ページ以内で記入してください。
⑥英語能力試験の成績証明書	一般入試出願者のうち学力試験の免除を希望する者	次に挙げるいずれかの英語能力試験において、550点以上のスコアを獲得している場合に限り、学力試験が免除されます。 TOEIC Listening & Reading Test（公開テスト） TOEIC Listening & Reading IP（カレッジTOEICを含む）入学試験日の2年前から出願までの間に受験し、獲得したスコアを対象とします。 TOEIC の Official Score Certificate（公式認定証）あるいは Score Report（個人成績表）を成績証明書として提出してください。
⑦研究業績報告書（＊）	全員	本研究科所定の用紙により、研究業績・職歴等を記入してください。（本学ウェブサイト「入試情報－募集要項」（ http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/yoko.html ）からもダウンロードできます。）
⑧在職していることを示す書類	社会人特別入試出願者	出願資格(2)④に該当する者は、在職していることを証明する書類（職員証、健康保険証、給与明細書等の写し）を提出してください。

書 類 等	提出該当者	摘 要
⑨検定料収納証明書貼付票（＊）	全員 （ただし、令和4（2022）年3月に本学大学院博士前期課程・修士課程修了見込みの者は検定料の払い込みは不要です。）	「検定料収納証明書貼付票」次頁の「検定料支払方法のご案内」を参照の上、検定料30,000円を下記の期間内に払い込んでください。（払込手数料が別途必要です。） 【振込期間】 令和3（2021）年7月14日（水）午前10時～ 7月21日（水）午後4時30分まで 「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り、「検定料収納証明書貼付票」に貼付した上で出願書類に同封してください。 出願書類を受理した後は、いかなる理由があっても検定料は返還できません。ただし、次の場合は検定料返還請求ができますので下記に申し出てください。 ア. 検定料を払い込んだが、出願しなかった（出願書類を提出しなかったまたは出願が受理されなかった） イ. 検定料を誤って二重に払い込んだ ウ. 出願期間終了までに、検定料免除に該当することを証明する書類を取得できなかったものの、出願期間終了後に取得した なお、請求方法等については、該当者へ個別に通知します。 また、返還の際の振込手数料は請求者負担となります。 検定料返還に関する問合せ先：福島大学財務課出納係 ☎ 024-548-8015 ※検定料免除について 本学では、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故ならびに平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し、被災受験者の進学機会の確保を図るために、令和3（2021）年度に行われる全ての入試において、検定料免除の特別措置を行います。 免除の条件については9ページの「11. 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について」を確認してください。
⑩受験票等返信用封筒・切手	全員	市販の長形3号（120mm×235mm）の封筒を準備し、封筒の宛先に志願者本人の郵便番号、住所、氏名を記入し、374円分の切手を貼付して、他の書類とともに提出してください。
⑪宛名票（＊）	全員	合格通知を受けるところの住所、氏名を記入してください。

（注1）＊印は、本学指定様式。

（注2）日本語以外で書かれた証明書（②，③）には日本語訳を添付してください。

（注3）④の修士学位論文の要旨，研究概要，⑤は日本語で作成してください。

（注4）提出期日までに必要書類が完備しない願書は受理しません。

（注5）出願手続完了後は、どのような事情があっても、書類の変更は認めません。

（注6）出願書類の記載事項と相違する事実が判明した場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。

（注7）⑥英語能力試験の成績証明書については、入試課において複写後、受験票に同封して返却します。

4. 選 抜 方 法

(1) 一 般 入 試

- ・ 一般入試は、学力試験（TOEIC 550点以上の者は除く）、研究に関する口頭発表・口頭試問および出願書類を総合的に判断して選抜します。
- ・ 学力試験では、専門分野に関連した英語能力について、口頭試問で実施します。
- ・ 口頭発表では、これまでの研究成果（修士論文など）および入学後の研究内容について15分以内で説明してください。説明時には、A4用紙5ページ以内の配付資料を3部持参して面接員に配付し、主にそれを使って説明してください。なお、必要であれば補足説明のための機器（動画再生やデモソフト実行用のノートパソコンなど）を持ち込んで使用することも可能です。ただし、スクリーンやプロジェクターを使用することはできません。
- ・ 共生システム理工学専攻における研究に関する口頭試問では、口頭発表やその内容に関する基礎的・専門的事項について、試問を行います。
- ・ 環境放射能学専攻における口頭試問では、口頭発表やその内容に関する基礎的・専門的事項について、試問を行います。また、専門分野に関連した英語能力について、試問を行います。

(2) 社会人特別入試

- ・ 社会人特別入試は、研究に関する口頭発表・口頭試問および出願書類を総合的に判断して選抜します。
- ・ 口頭発表では、これまでの研究成果（修士論文など）、研究業績および入学後の研究内容について15分以内で説明してください。説明時には、A4用紙5ページ以内の配付資料を3部持参して面接員に配付し、主にそれを使って実施してください。なお、必要であれば補足説明のための機器（動画再生やデモソフト実行用のノートパソコンなど）を持ち込んで使用することも可能です。ただし、スクリーンやプロジェクターを使用することはできません。
- ・ 研究に関する口頭試問では、口頭発表やその内容に関する基礎的・専門的事項について、試問を行います。

5. 日程および試験会場

(1) 試験日程

入 試 種 別	試 験 日	試 験 科 目
一 般 入 試	令和3（2021）年8月20日（金）	学力試験 口頭発表・口頭試問
社会人特別入試		口頭発表・口頭試問

※ 試験日および集合時間等については、受験票送付の際に併せてお知らせします。

(2) 試験会場

福島大学（福島市金谷川1番地）・・・・・・本要項末の大学案内図を参照してください。
試験会場の詳細については、受験票送付の際に、併せてお知らせします。

6. 障害等のある入学志願者の事前相談

障害（学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度）等のある入学志願者で、受験上および修学上の配慮を必要とする場合は、出願の1か月前までに本学入試課に申し出てください。

7. 合格者発表

令和3（2021）年8月26日（木） 午前11時

合格者の発表は、本学ウェブサイトの「入試情報」（<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>）に受験番号を掲載するとともに、合格者には「合格通知書」を郵送します。

電話等による可否の問い合わせには応じません。

合格発表当日は、インターネット回線が混雑するため、つながりにくい場合があります。

8. 入学手続および入学手続に係る留意事項

- (1) 合格者は、下記期間に郵送により入学手続を完了してください。詳細は合格者に送付する「入学手続の手引き」に記載します。

令和3（2021）年12月10日（金）～17日（金） 午後4時必着

- ※ 指定期日までに入学手続を完了しない場合は、合格者としての権利を失います。
- ※ 入学手続、諸会費等を記載した「入学手続の手引き」は10月上旬に送付予定です。

- (2) 入学金および授業料

入学金	282,000円	【予定】
授業料 前期分	267,900円	【予定】
後期分	267,900円	【予定】
年 額	535,800円	【予定】

（注1）入学金については、令和4（2022）年3月に本学大学院博士前期課程・修士課程を修了し、引き続き本課程に進学する場合は、納入する必要はありません。

（注2）入学時および在学中に入学金・授業料の改定が行われた場合には、改定時から新たな入学金・授業料が適用されます。

（注3）入学手続完了後、特別な事情により入学を辞退する場合には、令和4（2022）年3月31日までに「入学辞退願」（様式は任意）を提出してください。ただし、入学金は返還しません。留年等により入学資格を満たせなくなった場合を含みます。

9. 入学金・授業料の免除等について

経済的理由により入学金または授業料の納入が困難で、かつ、最終大学・学校等における学業成績が優秀と認められる場合には、選考のうえ入学金または授業料の減免が許可される制度があります。

また、博士後期課程の学生については、独自に、特に成績優秀または優れた研究業績を有すると認められる場合には、本人の申請に基づき、審査・選考のうえ、翌年度（新入生の方は令和4（2022）年度の授業料に該当します。）の授業料の全額または一部が免除される制度があります。

入学金・授業料の免除等に関する詳細は、合格者に交付する「入学手続の手引き」を参照してください。

問い合わせ先 福島大学学生・留学生課 ☎ 024-548-8060

10. 注 意 事 項

- (1) 受験票および受験者心得は、8月12日（木）頃に郵送します。8月18日（水）までに到着しない場合は、必ず本学入試課に連絡し、受験に必要な指示を受けてください。
- (2) 事情によっては、出願手続、試験期日等について、変更することがあります。変更があった場合は、あらためて通知します。
- (3) 入学志願者の個人情報保護について
本学では、提出された出願書類や入学試験により個人情報を取得します。取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」および「国立大学法人福島大学個人情報保護管理規則」に基づき、下記の目的でのみ利用し、その保護に努めます。
 - 入学者選抜に関する業務（統計処理等の付随する業務を含む）に利用します。
 - 入学手続に関する業務に利用します。
 - 入学手続完了者にあつては、入学後の就学指導業務および学生支援業務、授業料徴収業務、入学者の教育方法の改善に利用します。また、入学料免除、授業料免除および各種奨学金申請（応募）者にあつては、入学試験の成績等を当該免除者または奨学金貸与者の選考判定等に利用する場合があります。
- (4) 入学試験に関する問い合わせ先

福島大学入試課 〒960-1296 福島市金谷川1番地 ☎ 024-548-8064

11. 東日本大震災（原発事故含む）および激甚災害において被災された方に対する検定料の免除について

本学では、東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故、および平成23年度以降において豪雨災害等の激甚災害で被災された方の経済的負担を軽減し、被災受験者の進学機会の確保を図るために、令和3（2021）年度に行われる全ての入試において、検定料免除の特別措置を下記のとおり行います。

（注：検定料免除申請を行う場合は、出願時に検定料を払い込まないでください）

(1) 対象者

出願期間までに、次のいずれかに該当すると認められた本学入学志願者については、検定料を全額免除します。

- ① 東日本大震災において指定された災害救助法適用地域で被災された方、または平成23年度以降に「激甚災害」に指定された災害により被災された方で、本人または主たる家計支持者が居住していた家屋が全壊、大規模半壊、半壊、流失の罹災と認定された方
 - ② 東日本大震災において指定された災害救助法適用地域で被災された方、または平成23年度以降に「激甚災害」に指定された災害により被災された方で、主たる家計支持者が死亡または行方不明となった方
 - ③ 東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて設定された「警戒区域」、「計画的避難区域」、「緊急時避難準備区域」、「特定避難勧奨地点」に平成23年3月11日時点で本人または主たる家計支持者が居住していた方で、これに伴い避難を余儀なくされた方
- 上記免除対象者の詳細については次の表をご確認ください。

区 分	検定料免除の可否（可は○，否は×で示しています）				
①家屋の全・半壊	全 壊	大規模半壊	半 壊	流 失	一部損壊
	○				×
②主たる家計支持者が死亡または行方不明	主たる家計支持者				主たる家計支持者以外
	○				×
③原発事故による影響	警戒区域	計画的避難区域	緊急時避難準備区域	特定避難勧奨地点	それ以外の地域
	○				×

注：区域については、再編前の区域としています。

(2) 必要書類

検定料免除を申請するにあたって必要な書類は以下のとおりです。

① 検定料免除申請書（本要項に添付された指定の様式）

② 次に挙げる証明書のいずれか一つの写し

上記(1)①に該当する場合、「市町村長が発行する罹災証明書」

上記(1)②に該当する場合、「主たる家計支持者の死亡または行方不明を確認できる書類」

上記(1)③に該当する場合、「避難している（いた）ことが確認できる書類」（自己申立書でも可）

(3) 必要書類の提出方法と提出期間

出願期間中に書類と合わせて提出してください。

なお、検定料免除申請を行う場合は、出願時に検定料を払い込まないでください。また、「検定料収納証明書貼付票」の提出は不要です。

12. 2次募集について

入学試験の結果、合格者が募集人員に満たない場合は、以下の日程で2次募集を行う予定です。実施の有無および募集の詳細については、決定次第、本学ウェブサイトの「入試情報」(<http://nyushi.adb.fukushima-u.ac.jp/>)で公表します。

【共生システム理工学研究科（博士後期課程）第2次募集】

(1) 出 願 期 間

令和3（2021）年11月1日（月）～11月5日（金） 午後5時まで

※入学資格個別審査申請書提出締切（出願資格⑥，⑦，⑧，⑨により出願する者のみ該当）

令和3（2021）年10月1日（金） 午後5時まで

(2) 入学試験日

令和3（2021）年11月27日（土）

(3) 合格者発表

令和3（2021）年12月9日（木）

(4) 入学手続期間

令和3（2021）年12月10日（金）～17日（金） 午後4時必着

13. 入試における新型コロナウイルス感染症対応について

1. 振替試験について

令和4（2022）年度福島大学大学院共生システム理工学研究科（博士後期課程）入学試験において、新型コロナウイルス感染症の罹患等により、受験することができない者は、以下のとおり振替試験を申請することができます。

(1) 対象者

- ① 新型コロナウイルス感染症に罹患し、試験日までに医師が治癒したと診断していない者
- ② 試験直前に保健所等から濃厚接触者に該当するとされた者

（注）ただし、無症状の濃厚接触者については、後掲「2. 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応について」による申請により、受験を許可された場合、別室での受験ができます。

- ③ 発熱・咳等の症状があり、試験当日の検温で37.5度以上の熱がある者

(2) 申請期間

試験日の前日および当日 9:00～17:00

(3) 申請手続

A 申請期間内に本人または代理人が「受験票」と「診断書等（治療期間および検温した体温が明記されたもの）」を持参し、「追試験等申請書」により申請してください。

B 申請期間内に本人または代理人が来学できない場合は、電話で受付を行います。受付後、「受験票」および「診断書等」の提出が必要となります。

（注）診断書等の提出は申請期間の翌日までとします。翌日が土曜・日曜にあたる場合は、月曜日（月曜日が祝日にあたる場合は火曜日）とします。

(4) 振替試験の認否結果について

振替試験の認否については、本人に通知します。

(5) 振替試験日程および試験会場

- ① 振替試験日程は、本学が指定する日時とします。
- ② 試験会場は、当初受験予定であった会場に準じます。

(6) 合格者発表および入学手続

別途本人に通知します。

2. 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応について

本学を受験予定で、保健所より濃厚接触者に該当すると伝えられた者のうち、次のいずれの要件も満たし、本学入試課へ所定の申請手続を行い、受験を許可された場合に別室での受験ができます。

保健所より濃厚接触者に該当すると伝えられた者で受験を希望する場合は、まずは速やかに本学入試課に電話でご連絡ください。なお、原則として入試2日前の午前10時までに入試課にご連絡をお願いします。

【受験を認める要件】

- ① 初期スクリーニング（自治体によるPCR検査または検疫所における抗原定量検査）の結果、陰性であること
- ② 公共の交通機関（電車、バス、タクシー等）を利用せず、かつ、人が密集する場所を避けて試験場に来ることができること（自家用車等を利用すること）
- ③ 受験当日も無症状であること

- （注）1. 本学入試課への申告後に別室での受験に問題がないと判断された場合、申請者へ確認を行うと同時に、速やかに郵送またはメールで申請者宛てに許可証を送付します。
2. 受験当日は許可証を持参し、指定時間、指定場所（案内紙を許可証と同時に送付）に集合してください。そこで、無症状であるかの確認を行います。

試験当日にいずれの要件も満たしている場合は、感染防止対策をとり、別室受験とします。
試験当日に発熱、咳等の症状がある場合には受験できません。

3. 受験生の皆様へのお願い

本学では、試験場等の衛生管理体制に万全を期し、入試を実施します。受験生の皆様は、以下の新型コロナウイルス感染症対策をお願いします。

<試験前>

- 日頃からの体調管理、不要不急の外出等を行わないなど、感染リスクを避ける行動を心がけてください。
- 新型コロナウイルス感染症に罹患し治癒していない者および保健所等から濃厚接触者に該当するとされた者は受験できません。（無症状の濃厚接触者は「2. 新型コロナウイルス感染症における無症状の濃厚接触者への対応について」を参照してください。）

<試験当日>

- 試験当日は、検温を行い37.5度以上の熱がある場合は受験を取り止めてください。
- 試験場内において、写真照合時を除き、必ずマスクを着用してください。
- アルコールによる手指消毒、トイレ後の手洗いを行ってください。
- 発熱、咳等の体調不良の場合には、試験監督等に申し出てください。
- 換気を行いますので、体温調節が可能な服装をご準備ください。
- 試験前、休憩時間等は、他者との接触・会話を極力控えてください。
- 移動の電車等においても、マスクを着用し、友人との会話は極力控えてください。

<試験終了後>

- 入学試験受験後、2週間以内に新型コロナウイルス感染症に罹患したことが判明した場合には、必ず、福島大学入試課に連絡してください。
- 入試において感染者が出た場合には、保健所に連絡先等の情報提供を行う場合があります。ただし、提供する個人情報は新型コロナウイルス感染症拡大防止以外には利用いたしません。

Ⅱ－１．福島大学大学院共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻（博士後期課程）の特色

１．教育課程の編成と基本理念

共生システム理工学専攻博士後期課程では、「共生のシステム科学」をもとに持続循環型社会を目指し、21世紀の課題解決に向け、各領域で自立して研究活動を行うことができる高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とするため、広範で多様な専門教育を提供しています。また、専門的研究指導体制を明確にするため、「共生数理システム領域」と「共生環境システム領域」の2領域を設けて研究・教育を推進しています。

さらに、地域社会のニーズと大学院教育のマッチングを促進する一環として、地域に貢献できる実践的な研究能力を有する高度専門職業人を養成するため、地域の課題に積極的に関わることを目的として福島県の研究機関や企業の協力を得て、現場での開発・検証実験ができる体制を整えています。

２．修了要件、履修方法および学位の授与

本研究科に3年以上在学し、下記修了要件を満たした者に対して「博士（理工学）」の学位を授与します。

（修了要件および履修方法）

必修科目18単位、選択科目2単位、計20単位を修得し、本研究科が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。

3. 開設授業科目および単位数

開設授業科目および単位数 (共生システム理工学研究科 共生システム理工学専攻 (博士後期課程))					
科目区分	授業科目	履修年次	修了要件単位数		備 考
			必 修	選 択	
共通科目	(共通科目 A)				
	共生システム特別講究	1	2		
	(共通科目 B)				
	共生数理システム特別演習	2		2	
	共生環境システム特別演習	2			
専門科目	共生システム科学特別講究Ⅰ	1	2		
	共生システム科学特別講究Ⅱ	2	2		
	実践特別講究Ⅰ	1	2		
	実践特別講究Ⅱ	2	2		
	共生数理システム特別実践演習	3	2		
	共生環境システム特別実践演習	3			
特別研究	共生システム科学特別研究	1～3	6		

4. 「共生システム科学特別研究」担当教員一覧（一部変更になる場合もあります。）

領域	担当教員	内 容
共生 数理 シス テム 領域	石岡 賢	MOT に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、マネジメント・モデル策定のために資料の収集、インタビュー調査、市場調査などを行い、その収集データを分析・検討することによって、MOT の実践的なモデルを完成させる。自ら MOT を適用した経営的問題解決のための研究を推進することによって、自立した研究者として研究推進方法を獲得する。なお、マネジメント・モデルは実際に幾つかのケーススタディによって実践的な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	石川 友保	物流やロジスティクスに関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画および方針を策定する。策定した研究計画・方針に基づき、現地調査、行政・企業へのヒアリング調査、文献調査などを行う。また線形計画法やシミュレーションなどのオペレーションズ・リサーチの手法を用いて、物流やロジスティクスのメカニズムの解明や対策の定量的評価を行う。自ら物流やロジスティクスに関する研究を推進することで、自立した研究者としての研究推進能力を獲得する。また研究の各段階の成果を多様な視点から評価し、研究の具体性や客観性を高める。特別研究で得られた成果は在籍する3年間で博士論文としてまとめる。
	内海 哲史	新しいインターネット技術に関する最新の論文検索、講読に基づき、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に従って、無線ネットワーク・衛星ネットワーク・耐災害ネットワーク・インターネット輻輳制御・省エネルギーなどをキーワードに、新しいインターネット技術の提案又は性能評価、あるいはその両方を行う。性能評価としては、数学的解析モデリング、ネットワークシミュレーション、エミュレーション、実機実験などを必要に応じて実施する。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	筧 宗徳	生産システム、サービスマネジメントに関する論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画および方針の策定を行う。その計画に基づき、データの収集などの企業の実態調査などを行い、企業の抱えている問題を把握し、課題設定を行う。課題解決のため、インダストリアル・エンジニアリング、シミュレーション技術、オペレーションズ・リサーチ、人間工学等の経営工学領域における理論・手法を用いて分析し、課題解決のためのシステムや手法を提案する。提案させたシステムや手法をシミュレーションや実証実験により効果を検証し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	神長 裕明	ソフトウェア工学に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、ソフトウェア設計開発のためのモデル化や検証技法の開発、協調型ソフトウェア設計演習支援システムの開発等を行う。自ら新しいソフトウェア設計開発や設計開発演習のための手法・方法論を研究し、それらをシステムとして実装し、その有効性や実用性の検証・評価を行うことによって、自立した研究者としての研究推進方法を獲得する。また、システム開発や解析、設計等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高めることによって、研究者としての能力を獲得する。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	衣川 潤	人間機械協調ならびにその関連技術に関する最新の論文検索・講読をもとに、研究課題を抽出して博士論文作成のための研究計画・方針の策定を行うとともに、その計画に基づき、理論構築、システム設計、制御プログラム作成、数値シミュレーション、実験、それらの結果の詳細な検討と分析、などを行うことにより研究推進のための手法を学び、新たな研究成果の獲得を目指す。研究成果は適宜国内外の学会等で発表するとともに、他の研究者との意見・情報交換を通じて、さらにその手法を深化させる。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	篠田 伸夫	情報科学・工学の教育利用に関する最新の論文検索・講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画・方針の策定を行い、その計画に従って、教育システムの設計・作成および評価を行う。教育工学や教育・学習に関する従来の理論や教育現場での実践活動をもとに、情報セキュリティ、センサ、マルチメディア等焦点とするテーマを設定し、システム設計・評価を行っていく。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	島田 邦雄	エネルギーシステムに関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、諸現象解明のために計測を行い、そのデータを解析するとともに、数値実験等を行う。それらの理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、データ解析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。

領域	担当教員	内 容
共生数理システム領域	高橋 隆行	ロボットならびにその関連技術に関する最新の論文検索・講読をもとに、研究課題を抽出して博士論文作成のための研究計画・方針の策定を行うとともに、その計画に基づき、理論構築、システム設計、制御プログラム作成、数値シミュレーション、実験、それらの結果の詳細な検討と分析、などを行うことにより研究推進のための手法を学ぶ。研究成果は適宜国内外の学会等で発表するとともに、他の研究者との意見・情報交換を通じて、さらにその手法を深化させる。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	田中 明	生体循環系解析あるいは人工心臓制御に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、計測システムの構築、データの収集、理論構築そして検証を行い、新たな研究成果の獲得を目指す。同時に適宜国内外の学会等で研究成果の発表や関連する研究分野での最新情報の収集を行い、問題解決に関するさまざまな手法を学ぶ。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	董 彦文	経営情報システムに関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、企業経営問題の理解、企業の実態調査などを行い、企業の実データを収集したうえ、データマイニング技術および人工知能手法を用いて、企業の実問題を解決するための情報システム設計案を作成する。さらに、数値実験やシミュレーション等を行い、システムの効果を検証する。自ら企業経営理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、データ収集段階やシステムプロトタイプ構築の段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	中川 和重	非線形解析に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を設定し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、具体的な問題について解析を行う。学生が自ら未解決課題の研究を推進する中で、問題解決の方法、新たな課題の発見法、既存の結果の評価の仕方を身につけ、自ら課題を見つけそれを解決していく能力を涵養する。また、予備研究や容易な例の解析、本題の解決に必要な発展的知識の習得など各段階に応じ発表形式で議論を行い、現場の研究者に要求されるプレゼンテーション技術を練成する。またこれらの議論を通じ、研究成果を研究者の視点から評価し、問題意識の深化、最新研究の中での位置を確認していくことによって、オリジナルな結果を産出できる研究者としての能力を獲得する。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	中村 勝一	知識ソフトウェアシステムに関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、情報・知識の共有・活用モデルの分析、それに基づいた支援システムの設計・開発などを行い、特徴抽出アルゴリズムの設計を行う。自ら知識情報管理活用支援のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、ユーザモデルや知識データとその遷移に関する分析など、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に検証し、その実効性を高める。さらに、支援システムについて、理論・実践の両側面から多角的な検証・評価を行う。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	中山 明	グラフ・ネットワーク上の離散および連続最適化に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を設定し博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行う。具体的には、定理などの構築やアルゴリズムの設計、数値実験による検証を行う。また、現実への応用も追求し、具体性、実現性も高めていく。その過程で得られた研究成果は学会・研究会等で発表したり、関連研究者からも助言を受け研究報告書や論文としてまとめていく。特別研究で得られたこれらの成果については、最終的に在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	西嶋 大輔	産業エコロジー、環境経済学、環境政策に関する論文検索、講読をもとに研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画および方針の策定を行う。その計画に基づき、分析に必要なデータや文献の収集を行うとともに、産業連関分析や環境システム分析などの手法を用いて、生産や消費といった経済活動に伴う環境負荷に関する分析モデルを構築し、その環境負荷の削減に向けた施策・政策について定量的に評価・考察を行う。自らその分析モデルを構築し、環境負荷削減に向けた政策提言のための研究を推進することで、研究推進能力を獲得する。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。

領域	担当教員	内 容
共生数理システム領域	馬場 一晴	宇宙論，重力理論，ならびに関連する素粒子論に関する最新の論文検索，講読をもとに，研究課題を抽出し，博士論文作成のための研究計画，方針の策定を行い，その計画に基づき，一般相対性理論，場の量子論，そして素粒子論を用いて，理論的解析や数値計算等を行う。自ら問題を設定し，その解決のための研究を推進することによって，研究推進方法を獲得する。さらに，理論的考察や数値解析等，各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し，その具体性，実証性を高める。加えて，研究結果を学術論文として学術誌に公表するとともに，学会や国内外での国際会議等で積極的に発表を行う。これらの過程を通じて，自立した研究者に必要な能力を涵養する。特別研究で得られた成果については，研究背景，研究目的及び研究成果を詳細かつ明確に解説し，在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	樋口 良之	生産物流，資源循環，社会インフラなどのシステムのモデリング，シミュレーション解析，データ分析，評価，最適設計，機械学習の適用を研究対象にした博士論文をまとめる。研究対象や適用する各種技法に関する最新論文の検索と理解に基づき，必要な課題抽出，研究計画策定，実地調査計画の立案と実施，調査結果の分析，システムシミュレーション解析などを行いながら，研究推進能力を獲得する。解析ではオペレーションズ・リサーチの各種技法，離散系システムシミュレーション，機械学習を活用する。自ら課題解決のために研究を推進することで，多様なリソース，経験を獲得し実践力を涵養する。また，研究成果を多様な視点で評価し，課題解決のためのソリューションの実証性を高める。特別研究で得られた成果については，在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	藤本 勝成	非加法的集合関数とその周辺の論文検索，講読をもとに，研究課題を抽出し，博士論文作成のための研究計画，方針の策定を行い，その計画に基づき，現象の注視およびその本質的な数学的構造を獲得・表現する。また，その数学的構造を明らかにすることによって，それより導かれる諸概念が，実現象と乖離していないかなどの検証をしながら研究を推進することによって，自立した研究者として研究推進方法を獲得する。なお，各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し，その抽象性，一般性を高める能力を涵養する。特別研究で得られた成果については，在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	二見 亮弘	神経情報工学に関する最新の論文検索，講読をもとに，研究課題を抽出し，博士論文作成のための研究計画，方針の策定を行い，その計画に基づき，現象解明のために運動麻痺者・健康人・スポーツ選手などにおける運動パターンや筋疲労などの生体情報計測を行い，その計測データを解析するとともに，数理モデルを用いた現象の理解を試みる。また，運動麻痺者への神経筋電気刺激による歩行支援，スポーツトレーニング中の筋疲労の定量的推定，周期的運動の再現性を高めるための支援システムの構築などの研究を実践することによって，具体的な研究推進方法を獲得する。また，特別研究で得られた成果については，在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	三浦 一之	グラフ描画アルゴリズムに関する最新の論文検索，講読をもとに，研究課題を抽出し，博士論文作成のための研究計画，方針の策定を行う。その計画に基づき，各種アルゴリズムの実装およびシミュレーションを行い，その出力結果を解析するとともに，新しい描画アルゴリズムの開発を行う。自らアルゴリズムを構築するための研究を推進することによって，自立した研究者として研究推進方法を獲得する。なお，実装段階や出力結果の解析段階等，各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し，その具体性，実証性を高めることによって，研究者としての能力を獲得する。特別研究で得られた成果については，在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
共生環境領域	山口 克彦	物性物理学・放射線科学に関する最新の論文検索，講読をもとに，研究課題を抽出し，博士論文作成のための研究計画，方針の策定を行い，その計画に基づき，新規デバイス開発のための試料作成や，磁化測定，光学的または電気伝導的測定などの物性実験を行い，その実験データを解析するとともに，モンテカルロ法や有限要素法を用いた数値シミュレーション等を行う。自らデバイス開発のための研究を推進することによって，研究推進方法を獲得する。また，実験段階やデータ解析段階等，各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し，その具体性，実証性を高める。特別研究で得られた成果については，在籍する3年間において博士論文としてまとめる。
	浅田 隆志	再生可能資源材料や循環資源材料のエネルギー変換・マテリアル変換に関する最新の論文検索，講読をもとに，研究課題を抽出し，博士論文作成のための研究計画，方針の策定を行い，その計画に基づき，バイオマスのエネルギー変換の評価のためにエネルギー変換効率，マテリアル変換評価のために，試験材料の元素分析，細孔特性評価，吸着性能評価などを行い，その実験データを考察する。自ら新規変換方法，変換効率の改善，メカニズムの解明，実証試験等のための研究を推進することによって，研究推進方法を獲得する。また，各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し，その具体性，実証性を高める。特別研究で得られた成果については，在籍する3年間において博士論文としてまとめる。

領域	担当教員	内 容
共生環境システム領域	猪俣 慎二	錯体化学、有機金属化学やクラスター化学に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、クラスター化合物の構築や分子構造の決定、物性評価などを行う。自らクラスター化合物の設計や分子構造と物性発現の関連性やメカニズムの解明、実証のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	大橋 弘範	環境問題に沿った吸着現象や X 線分析手法に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、吸着実験や各種状態分析の実験を行う。自ら現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、観測段階やデータ解析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	大山 大	配位化学に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、合目的金属錯体の合成、物性評価、分子構造解析などを行う。得られたデータを系統的に整理し、適切な分子設計手法を確立することで、研究推進能力を獲得する。また、反応性について多面からアプローチを行い、創成した化合物の有効性を具体的に提示することを通して、研究の独自性等について多様な視点から客観的に評価する。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	兼子 伸吾	保全生態学に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、現象解明のために生態学的調査や分子生態学、保全遺伝学的な解析を行う。自ら現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を身につける。また調査・観察段階やデータ分析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	川越 清樹	水マネジメントシステムに関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、現象解明のための流域圏に関する流出量、土砂生産量、水利用の現地観測などを行い、その観測データを解析するとともに、数値実験等も行う。自ら現象理解のための研究を推進することによって、自立した研究者として研究推進方法を獲得する。なお、観測段階やデータ解析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	川崎 興太	都市計画やまちづくりに関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、データ分析、現地調査、インタビュー調査、文献精読などを通じて問題点や課題を把握する。自ら研究課題にかかわる都市計画・まちづくりの理論と実態に関する研究を推進することによって、自立した研究者として研究推進方法を獲得する。また、研究の各段階における成果を多様な視点から評価し、その具体性や客観性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	黒沢 高秀	生物多様性に関する多数の研究論文の講読を通じて、関連分野のレビューができるぐらいの体系的知識を身につけ、自然科学に関する高度な専門知識を会得する。その過程で、生物学的に興味深い、または社会的に重要な課題を設定し、仮説、調査・解析方法、期待される成果や、研究の発展性について十分に検討する。調査方法や実験方法、解析方法を習得し、必要があれば自分で開発する。調査・分析段階より、学外の研究者、愛好者、自治体、環境NPOなどと連携に努めることや、日頃から成果を一般向けに公表することにより、人間科学・社会科学的な素養を身につける。研究結果を、国際学会を含む学会で発表するとともに、学術雑誌に投稿する。その過程で、自立して研究・開発を行うことができる能力を養う。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	後藤 忍	緑地計画や総合的環境指標に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、必要な情報の収集や分析、評価、計画の立案等を行う。自ら環境計画の立案とその進行管理のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、採用するデータや環境指標、意思決定における判断基準など、多角的な視点から環境計画の望ましさを判断することの重要性について理解できるよう指導する。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。

領域	担当教員	内 容
共 生 環 境 シ ス テ ム 領 域	佐藤 理夫	次世代の製造プロセス・新エネルギー・リサイクルプロセスに関連した化学工学分野の博士論文を作成する。テーマとして選定した技術とそれに関連する分野の最新の論文検索・講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画の策定を行い、その計画に基づき、実験室内あるいはフィールドで行う実験を計画して実施する。実験手法は研究する対象によって自ら開発し、実験で得られた結果は各種の物性データと併せて考察する。実際の実用化プロセスを設計するために必要な技術情報を抽出し、実験あるいはモデル計算により検証する。不純物低減による品質向上・製造時の安全確保・コスト低減技術など、技術の実用化には不可欠である事項についても、多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	柴崎 直明	地下水盆管理計画に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、現象解明のために地下水位観測、水質観測、外部境界条件観測などを行い、その観測データを解析するとともに、MODFLOW や FEFLOW 等をベースとしたモデルにより数値実験等を行う。自ら現象理解のための研究を推進し地下水盆管理計画を検討して事前にモデルによる検証を行うことで、研究推進方法を獲得する。また、観測段階やデータ解析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	杉森 大助	生物工学に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、生物工学的実験などを行い、得られたデータを解析し、考察する。自ら現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、実験によって得られたデータ、結果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性、ならびに新規性や独創性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	高貝 慶隆	微量分析に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、濃縮分離法の開発、ケミカルセンシングデバイスの開発、各種分析機器の高性能化などを行い、その化学的なデータを解析するとともに、生体成分や環境試料などの実分析を行う。自ら現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、観測段階やデータ解析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	高原 円	ヒトの睡眠に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、研究目的の達成にもっとも適した方法（質問紙もしくは電気生理学的データ収集など）を用いてデータ収集を行う。そのデータを解析するための実践的な技法などを自らの研究を推進することによって獲得する。また、研究成果について複数回の中間報告を行うことで研究の発表能力や客観的な研究成果の評価能力についても身に付けることを目指す。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	筒井 雄二	本研究室では実験心理学分野における学習・記憶に関する問題、および災害心理学分野に関する問題をあつかった最新の研究論文を講読し、そこから研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針を策定する。研究計画には心理学的実験あるいは心理学的調査を含めることとする。実験や調査を遂行する過程で、心理学における科学的研究方法を習熟させ、データ解析の能力も身につける。さらに解析結果から論理的結果を導く能力と技術を高め、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	塘 忠顕	昆虫を中心とした小型節足動物の環境適応に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、電子顕微鏡（TEM, SEM）を用いた微細構造の観察、安定同位体比を用いた食性解析、野外におけるファウナ調査、生物群集調査、生活史調査、関連する非生物要因のデータ収集などを行い、得られたデータを解析するとともに、室内及び野外における検証実験等を行う。自ら現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を身につける。また、調査・観察段階やデータ解析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	長橋 良隆	第四紀地質学に関連した博士論文を作成するための課題抽出、研究計画策定、野外調査の実施、室内分析結果の解析、まとめ等を行いながら、研究推進能力を獲得すると同時に、第四紀地質学に関する博士論文を作成する。 第四紀地質学に関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、野外地質調査、光学顕微鏡および走査電子顕微鏡による物質同定、粒子およびバルク試料の化学組成分析等を行う。自ら現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、野外調査段階や室内分析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。

領域	担当教員	内 容
共 生 環 境 シ ス テ ム 領 域	永幡 幸司	サウンドスケープに関する最新の論文検索、講読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、現象解明のためにフィールド調査などを行い、その調査データを解析するとともに、必要に応じて心理実験等の実験室条件での検証実験等を行う。自ら現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、調査段階やデータ分析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	中村 和正	機能性材料創製に関する最新の論文検索、講読を通じて研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、化学的な観点を中心とした材料の作製、材料の構造解析や物性計測からその機能・性能を検証する。さらに作製した材料の構造解析や物性計測より、新機能の発現機構について考察する。その考察に基づいて更なる高機能化を目指し、材料作製にフィードバックする。自ら材料作製方法の確立、そして材料分析とともに現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。構造解析や物性計測では、それらの理論的解釈や応用範囲を理解し、研究者としての素養も身につける。また、各段階における研究成果を外部で公表するなどの多様な視点から客観的に評価し、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	難波 謙二	環境微生物学に関する最新の論文検索、講読をもとに、現代的な研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、対象フィールドに起きている自然現象のうち、微生物学分野で意義がありかつ微生物学的に解明可能な対象を抽出する。解明のために活性測定などを行い、そのデータを解析するとともに、分子生物学的な手法による解析を行う。自ら現象理解のための研究を推進することによって、研究推進方法を獲得する。また、観測・実験段階やデータ解析段階等、各段階における研究成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。
	横尾 善之	流域内の水循環過程に関する最新の論文検索と講読をもとに価値ある研究課題を抽出し、博士論文の作成に向けた研究計画をまず策定する。次に、研究課題の対象となる現象の解明に向け、データ解析、モデリング、現地観測などに取り組み、研究成果を取りまとめる。なお、研究の各段階における研究成果は既往研究との比較をしながら新規性や意義を整理し、論証する。最後に、特別研究で得られた成果を学術誌に発表するとともに、博士論文として取りまとめる。これら一連の研究活動を通じて、博士の学位を有する独立した研究者として身に付けるべき最低限の能力を身に付ける。
	吉田 龍平	地表面に近い大気を対象とした応用気象学に関する最新の論文検索、講読をもとに研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、現象解明のためにもっとも適した方法（現地観測、衛星観測、全球再解析、数値シミュレーション）を選択し、新たな研究成果の獲得を目指す。また、観測段階やデータ解析の段階等、各段階における成果を多様な視点から客観的に評価し、その具体性、実証性を高める。国内外の学会で研究成果の発表を行い、問題解決に関する最新の手法・動向を学ぶ。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。

5. 教育方法の特例措置について

本研究科では、大学院での履修を希望する社会人の期待に応えるべく、昼夜開講制を採り、夜間の2時限（18時00分～19時30分および19時40分～21時10分）に設定された授業の履修によっても課程修了に必要な全単位（20単位）を履修できる領域もあります。この特例措置を希望する場合には、福島大学入試課と入学後に指導を希望する教員に、出願前に相談してください。

6. 長期履修学生制度について

職業等に従事することにより時間的制約のある学生のために、標準修業年限を超えた期間（長期履修期間）で修学を可能にする制度です。

長期履修生として認められた場合は、認められた長期履修期間に応じて分割した額の授業料を各年度に支払うこととなります（例えば、博士後期課程学生の場合、通常3年で修了となりますが、この制度を利用することで、授業料総額はそのままに4年～6年間かけて学び、修了することが可能となります）。

問い合わせ先 福島大学教務課 ☎ 024-548-8357

Ⅱ－２．福島大学大学院共生システム理工学研究科 環境放射能学専攻（博士後期課程）の特色

1．教育課程の編成と基本理念

環境放射能学専攻博士後期課程では、「生態学分野」、「モデリング分野」および「計測分野」の3分野を設け、本学が有する充実した観測環境を活用し、国内外の大学・研究機関との協力関係を活かした実践的教育を実施します。それぞれの3分野において、博士課程の基礎的素養となる高度専門的知識を身につけた上で、環境放射能に関する高度な知識を有する研究者・専門的職業人として必要な専門的知識や技術を養うとともに、専門分野の異なる教員の指導を受けることで、専門的知識や技術の融合・深化、そして多元的な視点からの発展を図ります。また、地域の方々に対して専門知識を伝える、「知の還元」の役割を果たす力を身につけるために、サイエンスコミュニケーションを実践します。

本専攻博士後期課程では、環境放射能に関わる課題発見や解決および学術的発展をリードし、グローバルな視点で社会に貢献する研究者・専門職業人の育成を目指しています。

2．修了要件、履修方法および学位の授与

本研究科に原則として3年以上在学し、下記修了要件を満たした者に対して「博士（理工学）」の学位を授与します。

（修了要件および履修方法）

基礎科目6科目中、3科目を選択し6単位、応用科目必修8単位、講究科目必修6単位、合計20単位以上修得し、本研究科が行う博士論文の審査および最終試験に合格すること。

3. 開設授業科目および単位数

開設授業科目および単位数 (共生システム理工学研究科 環境放射能学専攻 (博士後期課程))								
科目区分	授業科目の名称	履修年次	単位数		授業形態			備考
			必修	選択	講義	演習	実験・実習	
基礎科目	《生態学分野》							
	放射生態学特別演習Ⅰ	1 前		2		※	○	※実習と演習で構成される
	放射生態学特別演習Ⅱ	1 後		2		※	○	※実習と演習で構成される
	《モデリング分野》							
	放射能動態解析特別演習Ⅰ	1 前		2		※	○	※実習と演習で構成される
	放射能動態解析特別演習Ⅱ	1 後		2		※	○	※実習と演習で構成される
	《計測分野》							
	放射能計測特別演習Ⅰ	1 前		2				
	放射能計測特別演習Ⅱ	1 後		2		※	○	※実習と演習で構成される
応用科目	環境放射能特別演習Ⅰ	2 前	2			○		
	環境放射能特別演習Ⅱ	2 後	2			○		
	環境放射能特別演習Ⅲ	3 前	2			○		
	サイエンスコミュニケーション特別演習	3 後	2		※	○	※	※講義，演習，実習で構成される
講究科目	環境放射能特別研究	1～3 通	6			○	※	※実験・実習と演習で構成される

4. 「環境放射能特別研究」担当教員一覧（一部変更になる場合もあります。）

領域	担当教員	内 容	English description (additional)
環 境 放 射 能 領 域	Alexei Konoplev	土壌－水系環境における放射性核種の挙動に関する最新の論文検索、購読をもとに、研究課題を抽出して博士論文のための研究計画・方針の策定を行う。その計画、方針に基づき、野外での試料採取や観測、同時に実験室での分析装置を用いた試料の処理と測定を実施する。また、環境中における放射性核種の動態と移行を物理化学的メカニズムを基礎とした理論を研究する。基本的な過程を理解するため、環境中における放射性核種の挙動の経験的及び半経験的なモデルを構築し、フィールドで得られたデータを用いて確認する。得られた研究成果は、国内外の学会等で発表し、広く他の研究者との意見・情報交換を行うとともに、学術誌に公表する。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。	Based on scientific literature review in the field of radionuclide behaviour in soil-water environment students select relevant direction of doctoral thesis and set-up the research plan. According to the plan and selected topic students carry out field sampling and observations as well as laboratory processing of samples and measurements using IER equipment and facilities. Students also study theoretical basis of physico-chemical mechanisms behind fate and transport of radionuclides in the environment. Based on the understanding of underlying processes students set-up simplified empirical and semiempirical models of radionuclide behavior in the environment and test them using obtained experimental field and laboratory data. Students present their results for domestic and international conferences to discuss their achievements with wide scientific community as well as write and submit articles for relevant international journals. The results obtained in the course of the studies will be summarized in the doctoral thesis during three years of enrollment.
	Ismail M. M. Rahman	廃棄物の削減、再利用、再生利用技術に関する最新の論文検索、購読をもとに研究課題を抽出し、博士論文のための研究計画、方針の策定を行う。その計画、方針に基づき、実験、フィールドサンプリング、機器を用いた分析を計画・実施し、環境の再生や環境解析に向け、環境に配慮した新たな手法の確立に取り組む。得られた研究成果は国内外の学会で発表し、他の研究者との意見交換を通じて研究のさらなる発展を目指す。博士課程の3年間で得られた成果については、博士論文としてまとめる。	The students will review the latest research publications on reduce, reuse, or recycle technologies for waste management to select the research topic, followed by the formulation of a research plan and direction of the doctoral Thesis. Students will use the plan and directions to learn and design the laboratory works, field-sampling, and instrumental analysis leading to the development of new eco-compliant approaches for environmental remediation or environmental analysis. Students will present their research achievements in domestic and international conferences and discuss with other fellow researchers to improve their research. The results obtained during the three-year course tenure of doctoral studies will be summarized in a doctoral thesis.
	Vasyl Yoschenko	福島とチェルノブイリの森林環境における放射性セシウムの動態と植物種に対する放射線の影響に関する最新の論文検索・購読をもとに、研究課題を抽出して博士論文のための研究計画・方針の策定を行う。その計画に基づき、研究方法と調査地を選択して、必要となる理論的知識と実践的技能を習得し、調査データの収集と分析を行う。得られた研究成果は、国内外の学会等で発表し、研究のさらなる進化に向けて他の研究者との意見・情報交換を行う。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。	Based on the comprehensive review of the research publications related to dynamics of radionuclides in the forest environments in Fukushima and Chernobyl and impact of radiation on the plant species, students choose research topics and formulate research plans of doctoral thesis. Based on those plans students choose the relevant research methods and experimental sites, and acquire necessary theoretical knowledge and practical skills while obtaining and analyzing the experimental results. Students present their results at domestic and/or international academic conferences and discuss with other researchers for further improvement of their researches. The results obtained in the course of doctoral thesis studies will be summarized in a doctoral thesis during the three years of enrollment.

領域	担当教員	内 容	English description (additional)
環 境 放 射 能 領 域	高田 兵衛	海洋環境における放射性核種の分析手法や動態に関する最新の論文検索、購読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文のための研究計画、方針の策定を行い、その計画に基づき、理論構築、実験、データの収集、検証を行い、分析手法の開発、放射性核種の物質循環について新たな研究成果の獲得を目指す。得られた研究成果は国内外の学会等で発表するとともに、学術論文として学術誌に公表する。更に、他の研究者との意見交流を通じて、分析や解析手法を深化させる。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。	The students will obtain scientific findings through the comprehensive understandings of biogeochemical dynamics of radionuclides in the ocean by the latest research papers, followed by the construction of research plans based on the interdisciplinary perspective including chemical oceanography and analytical chemistry for radionuclides. Then, they will provide results to domestic/ international scientific community and publics by publishing to scientific journals/ presenting in the conferences. Discussion of their achievements with scientific/public community will also open up profound insight. The research achievements obtained through the course will be summarized as the doctoral thesis during three years of enrollment.
	塚田 祥文	放射性核種の環境動態及び移行メカニズムに関する最新の論文検索、購読をもとに、研究課題を抽出して博士論文作成のための研究計画・方針の策定を行い、その計画に基づき、試料採取計画、分析手法の確立を行い、実験データ・要因の解析から環境放射生態学分野での独創的な研究成果を目指す。研究成果については、適宜国内外の学会等で発表し、他の研究者との意見・情報交換を通して深化させ、学術誌に公表するとともに、一般公衆に向けてわかり易く成果を発信できる能力を養う。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。	Based on the latest research publications related with environmental dynamics and transfer mechanisms of radionuclides, students determine a doctoral thesis throughout extracting research subjects, and formulating research topics and policies. Students make sampling plans and establish analytical methods, and then original researches with analyzing experimental data and factors will be constructed in the field of environmental radioecology. Research results will be appropriately made presentations at academic conferences in Japan and overseas, and deepened by exchanging opinions and information with other researchers. The studies will be published in academic journals, and will be developed to the general public with science communications. The studies obtained in the researches will be summarized in a doctoral dissertation during the three years of enrollment.
	鳥居 建男	放射線計測、及びその関連技術に関する最新の論文検索、購読をもとに、研究課題を抽出し、博士論文作成のための研究計画・方針の策定を行い、その計画に基づいて、放射線計測のための理論構築、システム設計、数値シミュレーション、実験、それらの結果の詳細な分析と検討を行い、新たな研究成果の獲得を目指す。研究成果は適宜国内外の学会等で発表するとともに、他の研究者との意見・情報交換を通じて、さらにその手法を深化させる。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間に於いて博士論文としてまとめる。	Based on the latest research publications relating to radiation measurement and relevant technologies, students extract research topics and formulate research plans and then decide direction of doctoral thesis. Based on those plans and directions, students practice theoretical construction of radiation detection techniques, system design of the detector, numerical simulation of radiation behavior, experiment, and summary of obtained results in order to learn methods for progressing and improving their researches. Students present their results at domestic and/or international academic conferences and discuss with other researchers for further improvement of their researches. The results obtained during doctoral thesis studies will be summarized in a doctoral thesis during the three years of enrollment.
	平尾 茂一	天然・人工放射性物質の大気輸送に関する、最新の論文検索と購読に基づき、研究課題を抽出し、研究計画を策定する。その計画をもとに、数値計算、現地観測、放射能分析などに取り組み、観測された現象の背景にある物理的な原理を解明し、新たな学術的知見の獲得を目指す。研究成果は国内外の学会で発表するとともに、意見・情報交換を通じて、専門分野の理解を深める。特別研究で得られた成果を学術誌に発表するとともに、博士論文としてまとめる。	Students review the latest research publications on atmospheric transport of natural/artificial radionuclides in order to select their research topics and develop research plans towards the development of doctoral thesis. The plans and course of action are carried out and taken by students to learn and design numerical simulations, field-sampling, and analysis of radioactivity. Students aim to elucidate the physical principles behind the observed phenomena and acquire new scientific findings. They will present their research achievements in domestic/international conferences and further improve their research through discussions and interactions with other researchers. Students shall develop the doctoral thesis based on the research results that they obtained in the course.

領域	担当教員	内 容	English description (additional)
環境放射能領域	脇山 義史	陸域放射能動態学や、それに関連する水文学、地形学、土壌学に関する最新の論文検索、購読をもとに、研究課題を抽出して博士論文のための研究計画・方針の策定を行う。その計画、方針に基づき、野外での水・土砂などの試料採取、観測機材を用いた環境時系列データの取得、実験室での分析装置を用いた試料の処理と測定、総合的なデータ解析を実施する。得られた研究成果を、国内外の学会等で発表し、広く他の研究者との意見・情報交換を行い、研究をさらに進展させる。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。	Based on scientific literature review in the field of radionuclide dynamics on terrestrial environment, as well as related academic fields such as hydrology, geomorphology and soil science, students get directions of doctoral thesis and make research plans. Under these plans, students conduct collections of environmental samples (water, sediment etc.) in field, acquisitions of time-series data with monitoring devices, laboratory works for sample processing and measurement, and integrative data analyses. Students present their results at domestic and/or international academic conferences to discuss with other researchers for further improvement of their researches. The results obtained during doctoral thesis studies will be summarized in a doctoral thesis during the three years of enrollment.
	和田 敏裕	水圏放射生態学や、それに関連する陸水学、海洋学、水産資源学、魚類生態学等に関する最新の論文検索・購読をもとに、研究課題を抽出して博士論文作成のための研究計画・方針の策定を行い、その計画に基づき、自らの研究を推進し、研究目的の達成に必要な手法や技能（フィールド調査や飼育試験、放射性核種の分析、データ解析等）を身に着ける。研究成果の国内外の学会等で発表や、関係者との意見・情報交換を通じて、発表能力や問題解決能力を高める。特別研究で得られた成果については、在籍する3年間において博士論文としてまとめる。	Based on scientific literature review in the field of aquatic radioecology, limnology, oceanography, fisheries science, fish ecology, etc., students select relevant direction of doctoral thesis and set-up the research plan. According to the plan students improve skills related to field sampling, laboratory rearing experiment, analyses of radionuclides data. Students also acquire skills of presentation and problem solving through feedback of their results for domestic and international conferences to discuss their achievements with wide scientific community as well as write and submit articles for relevant international journals. The results obtained in the course of the studies will be summarized in the doctoral thesis during three years of enrollment.

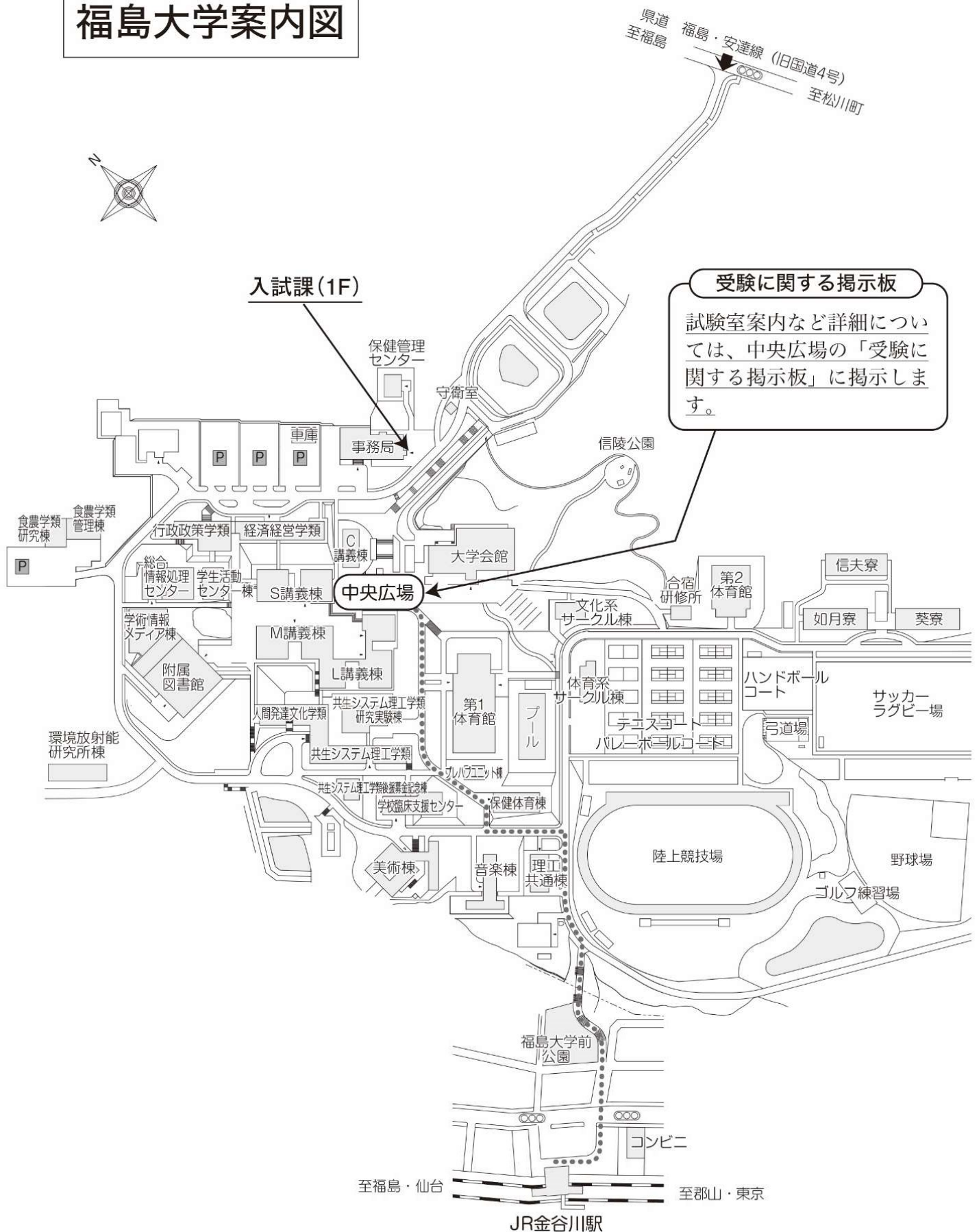
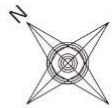
5. 長期履修学生制度について

職業等に従事することにより時間的制約のある学生のために、標準修業年限を超えた期間（長期履修期間）で修学を可能にする制度です。

長期履修生として認められた場合は、認められた長期履修期間に応じて分割した額の授業料を各年度に支払うこととなります（例えば、博士後期課程学生の場合、通常3年で修了となりますが、この制度を利用することで、授業料総額はそのままに4年～6年間かけて学び、修了することが可能となります）。

問い合わせ先 福島大学教務課 ☎ 024-548-8357

福島大学案内図



受験に関する掲示板

試験室案内など詳細については、中央広場の「受験に関する掲示板」に掲示します。

かなやがわ
JR東北本線金谷川駅下車
中央広場まで徒歩約10分



国立大学法人

福島大学

Fukushima University

入学志願票

志願専攻 (○印を付してください)		入試種別 (○印を付してください)		受験番号（記入不要）
共生システム 理工学専攻	環境放射能学 専攻	一般入試	社会人特別 入試	DR
ふりがな	生年月日・年齢			性別
氏 名	年 月 日 (満 歳) ※令和4年3月31日現在			男 ・ 女
	希望する指導教員名	指導教員の領域	国籍（外国人のみ）	在留資格（外国人のみ）
第1希望				
第2希望				
出願資格	該当する 出願資格 (全員)	(○印を付してください) 1 2 3 4 5 6 7 8 9	該当する 要件 (社会人特別入試)	(○印を付してください) A B
出身大学等	【大 学】国・公・私 立 大学		学部	学科
	学群		学群	学類
	年 月 卒業			
	【大学院】国・公・私 立 大学大学院		研究科	【修 士 博士前期】
	専攻		年 月 修了・修了見込	
現住所	住所 〒 - ☎			
連絡先 (日本国内)	住所 〒 - ☎ 携帯電話 E-mail			
勤務先 (有職者)	勤務先名称 職種・役職等 () 勤務先住所 〒 - ☎			

- (注) ① 「希望する指導教員名」「指導教員の領域」は、募集要項 P.15もしくはP.23～の担当教員一覧を参照し第2希望まで記入してください。出願に当たっては、出願前に志望領域の希望指導教員と連絡を取り、研究分野の適合性について必ず相談してください。
「指導教員の領域」については、共生数理システム、共生環境システム、環境放射能のうち、該当するものを記入してください。
- ② 「該当する出願資格」（全員）は募集要項 P.3～，「該当する要件」（社会人特別入試）は、募集要項 P.4を参照し○印を付してください。
- ③ 「連絡先」は、出願書類に関する照会等に利用しますので、連絡が確実なところを記入してください。

学歴		
日本国籍を有しない者は「初等教育」から、それ以外の者は「高等学校」から記入してください。 なお、研究生等の履歴も記入してください。		
学 校 名	期 間	
	年	月 入学
	年	月 卒業・卒業見込
	年	月 入学
	年	月 卒業・卒業見込
	年	月 入学
	年	月 卒業・卒業見込
	年	月 入学
	年	月 卒業・卒業見込
	年	月 入学
	年	月 卒業・卒業見込
	年	月 入学
	年	月 卒業・卒業見込
	年	月 入学
	年	月 卒業・卒業見込
	年	月 入学
	年	月 卒業・卒業見込
職歴		
勤 務 先 名 称	職 種	勤 務 期 間
		年 月 から
		年 月 まで
		年 月 から
		年 月 まで
		年 月 から
		年 月 まで
		年 月 から
		年 月 まで
		年 月 から
		年 月 まで
上記のとおり相違ありません。		
年 月 日		
氏名（志願者）		

（注）記載事項と相違する事実が判明した場合は、入学後でも入学を取り消すことがあります。

令和4(2022)年度
福島大学大学院
共生システム理工学研究科(博士後期課程)
(一般入試, 社会人特別入試)

写真票

受験番号 (記入不要)	DR		
ふりがな		男 ・ 女	
氏 名			
志願専攻 (〇印を付してください)	入試種別 (〇印を付してください)		
共生システム 理工学専攻	環境放射能学 専攻	一般入試	社会人特別 入試

写真貼付欄
(4cm × 3cm)

出願前3ヶ月以内に
撮影した上半身正面
脱帽のもの

本票は必ず持参し、受験中は机の上に置いてください。

令和4(2022)年度
福島大学大学院
共生システム理工学研究科(博士後期課程)
(一般入試, 社会人特別入試)

受験票

受験番号 (記入不要)	DR		
ふりがな		男 ・ 女	
氏 名			
志願専攻 (〇印を付してください)	入試種別 (〇印を付してください)		
共生システム 理工学専攻	環境放射能学 専攻	一般入試	社会人特別 入試

試験期日および時間

期 日 (記入不要)	入 試	時 間	試験科目
年 月 日 ()	一般入試	※受験票送 付時に通知 する。	学力試験 (英語)
	社会人 特別入試		口頭発表 ・ 口頭試問

受験者心得

1. 受験票送付の際に、集合時間を連絡します。
2. 試験開始後30分以上遅刻した者は受験できません。
3. 不都合な行為があったときは、受験の資格を失います。
4. その他、試験場に掲示する受験に関する注意事項を守ってください。

(問い合わせ先)

福島大学 入試課 ☎024-548-8064

【研究業績報告書は全員記入し提出してください】

研究業績報告書

[illegible]

検定料収納証明書 貼付票

受験番号 (記入不要)	DR
フリガナ	
氏 名	

- 次頁の「検定料支払方法のご案内」を参照し、「取扱明細書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取って貼付してください。
- ファミリーマートで支払いの方は、空いているスペースにレシート（受領書）原本を貼付してください。なお、志願者側において必ずレシート（受領書）の控え（コピー等）をとり、保管してください。

検定料
「収納証明書」
貼 付 欄

2022 年 3 月に福島大学大学院博士前期課程・修士課程修了見込の方は提出の必要はありません。

切 り 取 り 線

【検定料免除申請者のみ提出】
※検定料は払い込まないでください。

受験番号（記入不要）

DR

検 定 料 免 除 申 請 書

年 月 日

福 島 大 学 長 殿

志願者氏名 _____

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故、平成 23 年度以降に発生した豪雨災害等の激甚災害において、下記のとおり被災しましたので、必要書類を添付のうえ、検定料の免除を申請します。

記

1. 被災した原因（該当箇所にチェックをしてください。）

☐ 東日本大震災 ☐ 東京電力福島第一原子力発電所事故 ☐ 平成 23 年度以降に発生した激甚災害

2. 被災状況（該当箇所にチェックをしてください。）

①家屋の損壊 ☐ 全壊 ☐ 大規模半壊 ☐ 半壊 ☐ 流失

②主たる家計支持者が死亡または行方不明 ☐

③東京電力福島第一原子力発電所の事故による避難区域（区域は再編前の区域による）

☐ 警戒区域 ☐ 計画的避難区域 ☐ 緊急時避難準備区域 ☐ 特定避難勧奨地点

志願者氏名	
志願研究科	共生システム理工学研究科
連 絡 先	〒 ☎ ()

入 学 後 の 学資負担者氏名	☎ (続柄)
連 絡 先	〒 ☎ ()

検定料支払方法のご案内

コンビニ端末でお申込みの場合(インターネット不要)

クレジットカードでお申込みの場合

1 お申込み



マルチコピー機

<http://www.sej.co.jp>

最寄りの「セブン-イレブン」にある「マルチコピー機」へ。



TOP画面の「学び・教育」よりお申込みください。



学び・教育

入学検定料等支払

LAWSON



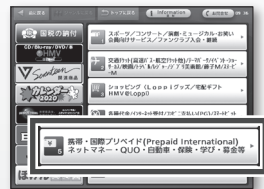
<http://www.lawson.co.jp>

<http://www.ministop.co.jp>

最寄りの「ローソン」「ミニストップ」にある「Loppi」へ。



TOP画面の「各種サービスメニュー」よりお申込みください。



「各種申込(学び)」を含むボタン

学び・教育・各種検定試験

大学・短大、専門、小・中・高校等お支払い

あなたと、コンビニ、

FamilyMart



<http://www.family.co.jp>

最寄りの「ファミリーマート」にある「Famiポート」へ。



TOP画面の「申込・保険・請求・募金(7)」よりお申込みください。



申込・保険・請求・募金(7)

学び・教育

各種(入学検定料等)お支払いサービス

<パソコン・スマートフォン>

*出願期間最終日のインターネットからのお申込みは16時30分までとなります。余裕を持ってご利用ください。

*PDFファイルを印刷するためのプリンターが必要となります。

本学「入学検定料支払い」ページにアクセス



<https://e-apply.jp/n/fukushima-gs-c/>



申し込みから
画面の指示に従って出願する入試を選んだ後、基本情報を入力。

入力内容が表示されます。間違いがなければ、次のページで表示される「受付番号(12桁)」を必ず控え、お支払い画面に進んでください。

※カード決済完了後の修正・取消はできません。申込を確定する前に、内容をよくご確認ください。

クレジットカードでお支払い



●お支払いされるカードの名義人は、受験生本人でなくても構いません。但し、前段の画面で入力する基本情報は、必ず受験生本人のものを入力してください。



福島大学大学院 をタッチし、申込情報を入力して「払込票/申込券」を発券ください。

*画面ボタンのデザインなどは予告なく変更となる場合があります。

2 お支払い

①コンビニのレジでお支払いください。

端末より「払込票」(マルチコピー機)または「申込券」(Loppi, Famiポート)が出力されますので、**30分以内にレジにてお支払いください。**

*お支払い済みの入学検定料はコンビニでは返金できません。
*お支払期限内に入学検定料のお支払いがない場合は、入力された情報はキャンセルとなります。
*すべての支払方法に対して入学検定料の他に、払込手数料が別途かかります。

払込手数料(税込)	検定料が3万円未満	595円
	検定料が3万円以上5万円未満	695円

(セブン-イレブン、ローソン、ミニストップ)

(ファミリーマート)

②お支払い後チケットとレシートの2種類をお受け取りください。

「取扱明細書」(マルチコピー機)または「取扱明細書兼領収書」(Loppi)。

②お支払い後レシート(受領書)をお受け取りください。

お支払いが完了しましたら、入試要項などの指示に従って出願書類を郵送してください。

コンビニで受け取った「取扱明細書」「取扱明細書兼領収書」または「受領書(レシート)」等は出願が完了するまで大切にお手元に控えておいてください。

お支払い後に上記URLまたは支払い完了メールに記載されたURLへアクセス(※1)し、

「**収納証明書の印刷**」からPDFファイルをダウンロードの上、印刷してください。

※1:お申込の際に発行された「**受付番号(12桁)**」が必要です。



上記URLからアクセス

※PDFファイルを印刷するためのプリンターが必要となります。

3 出願

郵便番号	
住所	
氏名	様
受験番号（記入不要）DR	
電話番号	
〒960-1296	
福島県福島市金谷川 1 番地	
福島大学入試課	
0 2 4 - 5 4 8 - 8 0 6 4	
品名：	書 類

郵便番号	
住所	
氏名	様
受験番号（記入不要）DR	
【福島大学生協 資料送付用】	

【 宛 名 票 】

- ・ 合格通知を受けるところの郵便番号，住所，氏名等を記入してください。
（2枚とも同じ住所を記入してください。）
- ・ 出願後，住所を変更した場合には，速やかに入試課まで連絡してください。
- ・ 「宛名票」に印字されている「様」は訂正しないでください。
- ・ 福島大学生協用は，教科書購入やアパート斡旋など，大学生活を始めるにあたって参考となる資料を送付するためのものです。